

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371400959		
法人名	有限会社サン		
事業所名	グループホームよろこび 1F		
所在地	愛知県名古屋市長区桶狭間北3丁目902番地		
自己評価作成日	平成22年11月12日	評価結果市町村受理日	平成23年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2371400959&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2371400959&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中村区松原町一丁目24番地 COMBi本陣S101号室
訪問調査日	平成22年12月3日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「グループホームよろこび」は、母体組織が病院ということもあり、介護における医療面でのケアが特に充実していると考えています。人工透析をされている方にも、隣接する協力医療機関である透析センターで、透析を受けて頂けます。また職員の教育にも力を入れており、認知症・拘束・虐待等の講習、勉強会を独自に開催したり、セミナーや研修にも参加できる環境を、積極的に作っています。

関連施設が2施設隣接しており、情報交換・緊急時の対応も協力し合える体制にあります。

運営理念は、職員一同「よ…寄り添いながら ろ…老後の こ…心を癒し び…美風ある住かとする」を共有、実践し入居者様に、明るくゆったり生活できる空間作り心がけています。

地域に根付いたホームを目指し、高齢者の介護に関する市民講座・相談会を開催し、多数の参加を頂いています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは、「地域に根ざしたグループホームとは」という視点を大切にしており、利用者・家族が、安心して暮らせるグループホームを目指している。管理者は、職員の意見や要望を聞き入れ運営に反映に努めていることで、職員間の人間関係も良好で、日常的に職員と共に話し合いながら支援に取り組んでいる。さらに、母体組織が医療機関であることで、医療連携や職員への研修も充実し、利用者、家族の安心につながっている。当ホームの向かいには、関係の事業所や協力医療機関があり、利用者の生活全般の支援を目指した事業運営が組織的に行われている。また、ホームの外に向けても、ボランティア、中学生等の受け入れも前向きに行い、地域住民への情報発信と協力関係の構築にも積極的である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は玄関に掲げられており、朝の申し送りや唱和し、職員全員が理解し実践に励んでいる。	「豊かな安心した日々を過ごして戴くこと」を基本とした理念を毎朝唱和し、管理者と職員が理念を日々意識し、互いのコミュニケーションをよくとり、ケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事(夏祭り・敬老会など)には、進んで参加し交流を深めている。日常的には散歩・近隣スーパーへの買い物等で、地域とのつながりを保っている。又、社協や地域のボランティアの方々の訪問もあり、歌や踊り等、話し相手にもなっている。	近隣中学からの職場体験、学生の受け入れ、園芸、傾聴の他、地元ボランティアの受け入れなど、地域との交流を図っている。ホームは、「こども110番の家」としても地域に貢献している。また、地域住民に向けた市民講座も開催し、地域貢献にも積極的である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者に関わる為に知りたい情報をテーマにした市民講座や認知症・障がい者向けの介護相談会を開催し、地域の方々が多数参加され、地域貢献にも努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	町内会長・近隣の民生委員、ご家族の協力によって2ヶ月に1回開催ができています。施設の活動・利用者やサービスの状況を報告し、地域の参加者からは地域の活動等を伺っている。	会議参加メンバーにより地域へホームの認知度が上がり、自主防災組織の紹介や新規の事業所開設の件など、様々な議題で話し合われている。また、会議でのミニ勉強会は、地域へ発信の基となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政が行う連絡会等に参加している。わからない事など問合せを行い、協力関係を築いている。又、担当者が定期的に市の介護指導課に出向き、会議等の報告を行い、指導を頂いている。	毎月、介護指導課に運営推進会議、3事業所合同会議などの報告をしたり、地域包括支援センターからの依頼で認知症関係の講師を担う予定をしているなど、行政担当部署との協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所全体で、身体拘束のないケアを実践している。講習会に参加し、職員会議で発表の時間を設け、社内展開している。	身体拘束の禁止は、管理者・職員ともに徹底されている。外に出る際も、言葉による拘束をせず、職員が一緒についていくなどの対応をし、利用者は自由に過ごすことができるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止法について講習を受け、学んだ事を基に勉強会を開き、見過ごされることがない様、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習会の開催案内を掲示し、参加を促している。各自参加し記録に残し共有して学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な説明を行い、納得のいくまで時間を取っている。契約後も、不安や疑問点を伺え易い様、定期的に自主的な独自アンケート等で連絡を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望・苦情等伺える様、独自にアンケートを実施し、対応している。又、そこで出された要望や指摘事項は全家族に書面で公表し、報告すると共に、運営に反映させている。	家族に対し、年2回の独自アンケートを実施し、出された意見・要望を、職員及び管理者を交えて検討し、運営に反映させている。その他、意見箱の設置、家族の訪問時、イベントに家族が参加した折等に、意見・要望を聞き出すようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議、リーダー会議、管理者会議、合同会議を定期的開催し、意見を聞き話し合える機会を設けている。	ホームでは、毎月開催するスタッフ会議で職員から意見提言がなされている。職員からの意見や要望として、休憩時間の取り方、年休所得、研修受講等、運営に反映するように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に面談の時間を設け、働きやすい環境づくりに努めている。又、職員の申し出により就業規則を見直し検討し、変更を行った。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等の情報は豊富にあり、経験などを考慮し薦めている。又、新人スタッフに対し、経験者がOJTとしてわかり易く指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会などの主催する研修等に参加し、交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者がアセスメントし、十分な把握をしている。サマリー等で全職員に展開し、入居後の支援に反映させ、本人の安心した関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を十分に聞き、要望を伺うなど安心して頂けるよう、信頼関係を築き、対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前に、管理者が本人・家族と面会し、サービスの必要性をアセスメントし対応をスムーズに行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の一方的な支援にならない様、趣味や掃除などのお手伝いコミュニケーションを通し、家庭的な場所である様、努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お便り・面会時に、本人の状況を報告し、家族等と情報交換を行っている。又、ご家族にレク・イベント行事へお誘いし、一緒に過ごせる様支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出は自由にして頂いており、友人・知人が訪問された時は歓迎し、次回も訪れやすいよう、心がけている。	写真を入れた年賀状作りを職員が支援したり、お寺や住んでいた家へ行ってみたり、他施設の親族を訪問する等、馴染みの関係の支援に努めている。また、家族が訪問した時には、馴染みの喫茶店へ一緒に行くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その人の個性や性格などを考慮しつつ、入居者同士が関わり合える様、ゲームや体操など工夫し支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等で来所・電話での問合せには、誠意を持って対応し、状況に応じ再度の契約や他のサービスの提供等、柔軟な支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から、思いや希望などを聞き取り、その意向に添える様支援している。又、気付いた点等、申し送りで職員全員での把握に努めている。	利用者の思いや要望は、日々の支援の中から表情や状態から読み取りながら対応している。把握困難な方については、病院のケースワーカー、家族、複数の職員から情報を得るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人ファイルや家族からの情報、又本人との会話から探り、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、申し送り等で全職員が、共通した支援が出来る様、一人ひとりの状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス計画を作成する際、ケアマネ・管理者・担当者で、本人・家族の意向をふまえた会議を開き、その時に合った介護計画を作成している。	本人や家族とも話し合いながら、3か月毎に見直しているが、状況が変化した時には、その都度見直し、介護計画を作成している。職員が記入する毎日の介護記録をABCで評価・集計している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画をABC段階で実践を評価し、介護計画の見直しに活用している。又、気づいた点など介護記録に記入し、申し送り等で職員間で情報を共有し、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に沿うよう介護計画を随時見直し、柔軟な対応に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会のお祭りや地区敬老会に参加させて頂いている。又、選挙の投票に、積極的に関わり自身の価値を保っている方もおられる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を尊重しかかりつけ医の受診を支援している。ご家族様が付き添えない場合は、職員が対応している。又、隣接している協力医療機関では、定期健診・受診を受けられる体制になっている。	入居前までのかかりつけ医の継続か否かは、入居時に話し合い決めているが、協力医療機関に変更する機会が多い。眼科などは、従来のかかりつけ医を継続している。協力医療機関利用時は職員が付き添うこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する協力医療機関の訪問看護を利用しており、相談・指導を頂き、素早く適切な対応が出来ている。今後も、細かき状態の変化も見逃さず、適切な支援を続けていきたい。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との、連携はシステム化されており、密な連絡がとれている。入院の際には管理者がお見舞い等に伺い、その都度情報交換をおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、「重度化した場合の対応方針」の同意書を頂いている。利用者様・ご家族様から要望があった場合、チームでの支援の体制も「看取り検討委員会」で話し合い、職員全員が同じ方針の下、支援していく体制にある。	医療行為が必要になり、支援できる限界の状態まで家族と相談しながら対応している。重度化や終末期の対応については、ホーム入居時に、利用者・家族と話し合いながら理解してもらえるよう努力している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議で、AEDと心肺蘇生の練習用マネキンを使い、実践練習を行った。又、応急手当で初期対応マニュアルを新たに製作、又、緊急連絡網も整備し事務所に掲示し、常に急変時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練は、定期的に行っている。夜間想定訓練では、隣接する施設との連携も行っている。又、大規模災害時の避難場所として、施設で出来る事は行っていきたい。	訓練の内1回は、夜間を想定して行い、担当者・避難場所を決め、動けない利用者の移動等の手順の打ち合せや、近隣周辺の住民にも協力要請を行っている。また、3日分の飲料水と食べ物が備蓄されている。	地域住民への緊急時の現実的な連絡方法を工夫し、実際の避難訓練を近隣住民の参加を得て行い、地域住民を巻き込んだ災害対策となるよう、運営推進会議などを活用して推進されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬を忘れずに、丁寧でわかり易い言葉かけを心がけている。又、スタッフの表情・声の大きさ、排泄誘導等の声かけには特に気づかいお互いに十分注意しあっている。	利用者の名前呼び方、トイレ利用時の気遣い、居室への立ち入り、入浴時の対応など、日々の生活場面において、きめ細かな気遣いを日常的に行うように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員全員が本人本位の希望の大切さを理解している。自己決定できるよう促し、ゆっくり待つことを心がけ、本人の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、利用者様本位に考え、体操やレクなど、その人のペースに合わせる支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の自己決定にまかせ、時には個性に合った服装をコーディネートしたり、新しい服・似合う服など、ほめる様にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週に2～3回、昼食のクッキングの時間を設け、野菜を切る、ちぎるなど、その人の力を活かしながら、一緒に食事を作っている。又、後片付けなど出切る方には、協力して頂いている。	配食サービスの時と、週2回の昼食はクッキングの日としてホーム内で調理し、利用者も準備、後片付けに参加している。誕生日には、ケーキなどを作って、提供することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量を介護記録に記入し、一人ひとりの摂取量を把握している。又、それぞれの状態に応じ、トロミ・きざみ・食器類の形状など対応した支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自己で可能な方は見守り、場合によりフォローし、介助が必要な方には一人ひとり確実にやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを考慮し時間を見ながら、支援している。又、しぐさや表情・行動などでサインを見逃さず、随時誘導し排泄の支援に努めている。	排泄の自立へ向ける為、一人ひとりの排泄パターンをチェック表から把握し、周囲に気づかれないようにトイレへ誘導している。紙パンツから布パンツに変わり、動きやすくなり自立へと向けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動・飲食物の工夫によって、便秘の予防に努めている。排泄記録を確認し、看護師の指示の下、薬によって確実な排便に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	順番・曜日など、偏らないよう平等に努めている。体調面・要望等で柔軟に対応し、入浴を楽しむ支援と同時に体の状態の把握に、気をつけている。	お風呂は、日曜日以外の毎日準備し、一日おきに午後の時間帯に入浴している。入浴順はローテーションである。入浴を嫌がる場合は、時間をおいて声をかけたり、職員を代えて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、良眠できる様、出来る限り日中活動する工夫をしている。又、医師とも相談しながら、必要時には薬も使用し、安眠できる様、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬、飲み忘れのない様、スタッフ各自が服薬確認・残袋の確認を徹底している。薬剤情報の把握に努め、症状の変化等日々注意し申し送りを徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴情報等を基に、その人に合わせた役割など出来る事を、毎日の日課にしたり散歩・食事の手伝いなどで、楽しめる支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段行けない場所への行楽・外食など計画し、家族了承を得て実施している。日常的には近くの池への散歩で、季節感を味わって頂いている。	同一法人の他事業所への行事へ出向いたり、その人のペースに合わせてながら、公園へ散歩に行っている。さらに、近くのスーパーへの買い物には、利用者と職員が行くようにしている。まあ、年2回の遠足や、外食に出掛ける取り組みも行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している方、入居時家族に相談して事務所にて保管している方、それぞれおられるが、必要な物・希望があれば、職員と一緒に買い物にでかけ、使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、その都度家族に電話をして頂いている。手紙のやり取りなど、職員から提案し本人が書いたりできる様、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、混乱をまねかない様簡素にしつつ、季節感を感じて頂ける花や飾りつけをしている。トイレは、わかりやすい様、「あき」「使用中」の札を掲げている。	共用スペースのフロアーには、ゆったりとしたソファが置かれ、テレビを観たり、居眠りしたり、思い思いに過ごしている。廊下の壁には、出掛けたときの写真が貼ってあり、季節の飾りをする事で、季節感を持って頂くように取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやダイニングテーブルでそれぞれ自由に過ごして頂いている。又、事務所前の浴室入口に椅子を配置し、共用空間の中で、独りになれる配慮もしている。その場合は、そっと声かけをし、見守っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人の使い慣れた物や写真など、馴染みのある物を置いたり、飾り付けたり等工夫し、以前の生活感を保てる様、配慮している。	家族には、馴染みの物を持って来て貰うよう依頼し、タンス、ソファ等、その人が使い慣れた家具や記念の物を持ち込んでいる。清掃は、利用者が出来ないところを職員が支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その時々々の能力に合わせ、「できること」「わかること」を確認しながら、歩行訓練等自立に向けた支援をしている。安全の為、手摺・動線を配慮したテーブル・ソファの配置に工夫している。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームよろこび

## 目標達成計画

作成日: 平成 22年 12月 20日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	非常災害時の訓練は、年2回定期的におこなっており、隣接する施設との協力体制も、その都度行っているが、現状では地域住民の協力を得た対策は、整っておらずその点が課題である。	訓練時の地域住民の参加及び、非常時の地域消防団との連絡体制の整備。	運営推進会議を通じ、非常時の避難等、協力をお願いをする。又、町内会長には地域消防団の紹介をお願いをする。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月